

万博開催で大いに盛り上がる

大阪。55年前、同じく大阪

で開かれた万博「EXPO

’70」の広大な会場跡

地は、現在「万博記

念公園」として整備

され、多くの人に親

しまれている。その

一角にあるのが、ガ

ンバ大阪のホームス

タジアム「パナソニッ

クススタジアム吹田」だ。

ガンバ大阪といえば、Jリ

ーグ発足の1993年から加盟

する「オリジナル10」の1つであり、

国内タイトル獲得数9回を誇る、言

わずと知れた名門プロサッカークラ

ブだ。

5月28日。パナソニックスタジア

ム吹田で催されたのが、ガンバ大阪

とUR都市機構との「包括連携協定

およびSDGsmileパートナー契約」

の締結式だ。一見つながりがなさそ

うなプロサッカークラブとUR、連

携の意義と目的を取材した。

○手を携えて地域を活性化

サッカーを通じて 団地と地域、住民を元気に！

大阪府 吹田市・茨木市・高槻市・豊中市・
摂津市・池田市・箕面市 北摂・北河内地域
ガンバ大阪との包括連携協定締結及び
SDGsmileパートナー契約 2025年●令和7年～



阿部民子 text by Tamiko Abe

Illustration by Shigeyuki Sakata

吹田市・茨木市・高槻市・豊中市・
摂津市・池田市・箕面市、活動エリ
アである北摂・北河内地域には、
URの67団地、約3万6000戸の
賃貸住宅があり、URにとっても非
常にゆかりのあるエリアだ。

水谷社長は「チームの一番のベ
ースにあるのが、地域の人と共に歩む
ことです。そのために、チーム設立
以来、サッカースクールや、授業時
間内に選手が地域の小学校を訪問、
ミニゲームや先生チームとの対戦な
どを行う『ホームタウンふれあい活
動』など、地域活性化のための多く
の活動を行っています。スポーツ
は、人々をつなげ、世代間を超えた
コミュニケーションが作れる、非常
に貴重なツール。今回の協定締結によ
って、URさんと共に地域コミュニテ
ィの醸成や活性化に貢献できたら」
と力を込める。

URの高原は「子どもたちの輝
く未来づくり」、『健康で豊かな人
生』、『安全で豊かな街づくり』の活
動をアシストする『ガンバシスト』
の取組みは、URが掲げる目標と完
全に一致するものです。今回の連携

を通じて、ガンバ大阪さんと共に、
団地を中心とした地域住民の健康増
進や子どもたちの健全育成、さら
には高齢者の社会参加促進などの取
組みを進めたい。そして、地域全体が
一体となり、活気に満ちたコミュニ
ティが築かれるよう、共に努力した
い」と決意を述べた。



上／ガンバ大阪の水谷尚人代表取締役
社長執行役員とUR都市機構西日本支社
長の高原功が固く握手
左／試合が見やすいスタジアム



○SDGsにも連携して貢献

スポーツを通じた、地域活性化に
繋がる連携協定。実現のきっかけ
は、サッカー好きUR職員の1通の
「問い合わせメール」だった。その
経緯を、URの遠藤亮之に聞いた。

「ガンバ大阪がホームタウンの小中
高生を試合に無料招待する『ホーム
タウン応援デー』のチラシを、職員
の子どもが学校から持ち帰ってきた
んです。チラシにはスポンサー企業
名も載っていたため、URの団地で
もできないかと、HPに問い合わせ
メールを送ったのが発
端でした」

問い合わせを受けた
ガンバ大阪の事業本部
パートナー推進部営業
課の甲斐出大貴さん
は、「今回、包括連携
協定とともに、我々が
地域社会を笑顔にする
ことを目的に進めてい
る『SDGsmile』パート
ナー契約」も締結させ
ていただきました。

URさんは我々よりも以前から地域
に根づき、SDGsという言葉が出
る前から活動をされてきている。
我々も見習わなければならないし、
一緒に取り組みたいと、すぐにレス
ポンスのメールをお送りしました」
と振り返る。

「団地のコミュニティのなかで、子
どもたちだけでなく、ご家族連れや
ご高齢の方まで、皆さんが楽しんで
いただけるイベントを考えてほしい、
とご要望いただいているので、サッ
カー教室やマスコットキャラクター
の派遣など、ガンバを身近に感じて
いただきつつ、世代を超えて楽しめ
る企画を考えています」との甲斐出
さんの言葉に、大のサッカーファン
である遠藤は「楽し
みでしかない！」と
声を弾ませる。

サッカーを通じて、
団地住民だけでなく、
地域全体が明る
く元気になるよう
に。URとガンバ大
阪のチャレンジが始
まる。

街に、ルネッサンス



〔企画制作〕新潮社